国際歯科研究学会日本部会会報● Japanese Association for Dental Oral, and Craniofacial Research
2025 -2
October

Newsletter for JADR

Ⅰ．2025 年上半期のご報告

JADR 会長　林　美加子
（大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学教室）

今年の暑く長い夏が終わり，ようやく涼しい季節を迎えました。初秋には，日本から 2 名のノーベル賞受賞者が選出されるという，大変嬉しいニュースの興奮が続いています。

今年の夏は JADR にとっても重要な出来事がありました。まず，6 月にスペイン・バルセロナで開催された IADR には，全体の参加者は約 4,500 名であり，多くの JADR 会員も参加されました。そこでは，今里 聡教授（大阪大学）が IADR President として立派に責務を果たされ，会期中に Pamela Yelick 教授（Tufts 大学）に President の引継ぎをされました。その Board Meeting では 2029 年 6 月に IADR General Session が横浜で開催されることが承認され，各国の Board Member から暖かいお祝いの言葉をいただきました。IADR General Session の日本での開催は 2001 年以来と，28 年の時を経ての開催となります。開催地の横浜は，港町の明るい雰囲気と清潔に整備された安全な都市として，世界各地からの IADR メンバーに満足していただけることを確信しています。そして，本年の JADR 総会では，江草 宏教授（東北大学）を実行委員長に，松本 卓也教授（岡山大学）を副実行委員長とすることが承認され，早速，大会開催の準備を本格化しています。この横浜大会では世界各国からの参加者 5000 人の規模をめざしており，国内では日本歯科医師会，日本歯科医学会，日本歯科商工協会など関連団体からのご協力を依頼しております。大会の成功に向けて，JADR 会員の皆様からも，あらゆる国際学会での広報の強化など，グローバルかつ多彩なアイデアをお寄せくださるよう，何卒よろしくお願い申し上げます。

8 月の理事会の際には，2026 年 3 月に San Diego で開催される IADR Hatton Award 本選に JADR から参加する 3 名を選出いたしました（後述「Ⅲ．Hatton Award 本選を終えて」参照）。この Hatton Award への JADR からの応募者の研究レベルは目を見張るほど高く，できる限り多くの若い研究者を IADR 本選に推挙できればと願っています。その推薦枠は IADR 会員数に比例して割り当てられていますので，JADR は早急に会員数 1000 名を突破し，まずは 4 枠獲得することを目指して参りたく，会員増のために周囲へのお声かけなど，皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さらに，9 月には IADR/APR がインドのニューデリーで開催されました。3 日間の会期中には IADR から Yelick 会長と Fox CEO の講演や，各地域が開催するシンポジウムなど盛り沢山な内容でした。JADR も会期中に総会を開催したり，JADR シンポジウムでは “Oral Health and Systemic Health in the Global World” のタイトルにて，相田 潤教授（東京科学大学）と仲野 和彦教授（大阪大学）が Indian Division から推薦された 2 名とともに登壇され，日印の国際交流にも寄与していただきました。その会期中には，JADR/GC 学術奨励賞および Lotte 賞の選考会も開催され，Indian Division から “飛び入り”

審査員も参画される中，応募者の真摯な発表と討論がなされました。このAPR大会にはJADRから11名の理事を含む70名を超える会員が参加していただき，主催のIndian DivisionのMahesh Verma大会長をはじめとし，Indian Divisionメンバーから感謝を伝えられました。この機会を捉えて，2029年のIADR横浜大会にIndian Divisionから多くのメンバーにご参加いただくようにお願いいたしました。

今年も後半を迎え，2026年11月のJADR大阪大会や，2029年のIADR横浜大会の開催準備など，ますますJADR活動を活性化して参りますので，皆様からのご支援・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

Ⅱ．第103回IADR Barcelona大会（2025年度）各受賞者報告，参加報告

1．Arthur R. Frechette New Investigator Awardを受賞して

佐藤　友美
（東北大学大学院歯学研究科　分子・再生歯科補綴学分野）

このたび，第103回IADR学術大会（バルセロナ）においてArthur R. Frechette New Investigator Awardを受賞するという栄誉にあずかり，心より光栄に存じます。本賞は，補綴歯科の将来を担う若手研究者を顕彰する目的で設けられたものであり，提出された研究要旨をもとに，臨床的観点から厳正な審査が行われます。本年は，例年を大きく上回る32名の応募があり，その中から私は5名のファイナリストの一人に選出されました。バルセロナ到着の翌日，6月24日午前にファイナリストによる口頭発表および質疑応答が行われ，次の日の表彰式にて，最も優れた発表と評価され，最高位の賞を頂くことができました。このような高い評価をいただけたことは，身に余る光栄であるとともに，今後の研究に対してより一層の責任と覚悟を持って取り組む契機となりました。授与された楯には，当分野の江草宏教授，大川博子先生，大堀悠美先生をはじめとする高名な先生方のお名前が刻まれており，そのような尊敬する先生方の後に自らの名前を刻んでいただけたことを，この上なく嬉しく感じております。

著者（中央），江草宏教授（右）と近藤威講師（左）

今回，受賞の対象となった研究「Innate Lymphoid Cells as Potential Therapeutic Candidates Promoting Socket Preservation」では，補綴歯科治療の長期的予後に大きな影響を与える「抜歯後の歯槽骨吸収」という臨床課題に対し，免疫学的視点から新たな制御機構の解明を試みました。私たちは，比較的近年に定義された免疫細胞群である，自然リンパ球（Innate Lymphoid Cells: ILC）に着目しました。マウス抜歯モデルを用いて，経時的に抜歯窩周囲における免疫細胞の挙動を解析した結果，抜歯直後にILCの一つのサブセットが顕著な増加を示し，特異的なサイトカインの産生を介して間葉系幹細胞による骨芽細胞への分化を促進し，骨再生に寄与することを明らかにしました。この知見は，ILCが抜歯窩の治癒に直接的かつ積極的に関与することを世界に先駆けて示したものであり，従来の補綴歯科治療やインプラント歯科治療を補完する新たなアプローチに繋がることが期待されます。

学会の開催地であるバルセロナは，文化と歴史，そして情熱に彩られた唯一無二の存在感を放つ都市です。メッシやロナウジーニョらの活躍によってFCバルセロナは世界一に輝き，その名を世界中に知らしめてきました。そして何より，この街の象徴とも言えるアントニ・ガウディの建築群は，人々を魅了し続けています。私は学会の合間にサグラダ・ファミリアを訪れ，差し込む光，柱の構造，彫刻の一つひとつの細部に宿る美しさ，自然への深い洞察力に心を打たれました。「自然は私の師だ」と語ったガウディの自然観察を通じて構築した独自の理念は，自然現象の背後にあるメカニズムを読み解こうとする研究者の探究心にも通じるものがあると感じました。そして，「世界一の教会をつくる」と語ったガウディの気

迫に触れたこの地で研究が評価されたことを私は心から誇りに思いました。今後は基礎と臨床の架け橋となる研究を推進し，免疫制御を応用した新たな骨再生療法の実現に向けて一歩ずつ着実に歩みを進めてまいりたいと，ガウディの精神に触れ決意を新たにした次第です。

最後になりますが，このような貴重な発表の機会を設けてくださったIADRならびにJADR役員の皆様に心より御礼申し上げます。そして本研究を進めるにあたり，常に温かく的確なご指導を賜りました江草宏教授ならびに近藤威先生には，この場をお借りして深く感謝申し上げます。特に発表準備の段階では，お忙しい中にもかかわらず何度もプレゼンの改善にお付き合いいただき，大変心強く，そのお力添えなくして今回の発表に至ることはなかったと実感しております。本研究にご協力くださった先生方，日頃よりご指導いただいている教室員の先生方，そして常に支えてくださった皆様に，この場をお借りして重ねて深く感謝申し上げます。

2. IADR Kulzer Travel Award を受賞して

Yo-Shiuan FAN
（大阪大学大学院歯学研究科生体材料学講座）

It was an incredible honor to receive the IADR Kulzer Travel Award and share this recognition with four outstanding researchers at the 103rd General Session and Exhibition of the IADR held in Barcelona, Spain. As a third-year PhD student specializing in oral science, this award represents a significant milestone in my academic journey. Established under the sponsorship of IADR and KULZER, the award recognizes young researchers who propose novel research methodologies in the field of dental materials science and contribute to the development of innovative materials.

At the conference, I had the opportunity to present the research titled “Designing Ca/Sr-containing glass composition for neutral pH-responsive dissolution using AI.” In this study, artificial intelligence (AI) was applied to help design and optimize glass compositions containing Ca and Sr that can dissolve in response to neutral pH conditions. Although AI applications in dentistry are still in their early stages, the goal is to explore how this technology can support the creation of smarter, more effective dental materials. Having this work recognized at such a prestigious international conference was both encouraging and inspiring, motivating me to continue pushing the boundaries of our research.

I was truly delighted to introduce this study to researchers from around the world. Receiving valuable comments and suggestions for current and future studies was an invaluable experience. Moreover, the IADR meeting served as an exceptional platform for exchanging the latest research findings and innovative ideas in dental science from Japan and abroad. It was an opportunity not only to broaden my academic perspective but also to gain new insights and inspiration for my future work.

Finally, I would like to express my heartfelt gratitude to Professor Satoshi Imazato, Professor Satoshi Yamaguchi, and Assistant Professor Haruaki Kitagawa of the Department of Dental Biomaterials, Graduate School of Dentistry, The University of Osaka, for their kind guidance, encouragement and continuous support. I am also sincerely thankful to all the members of the department for their support. Receiving this award has strengthened my motivation to further advance my research and to contribute to the progress of dental science in the years to come.

Winners of the IADR Kulzer Travel Award 2025 (From left to right)
Maria Helena Borges (State University of Campinas, Brazil),
Sepideh Fallah (Queen Mary University of London, UK),
Yo-Shiuan Fan (Author, The University of Osaka, Japan),
Dr Janine Schweppe (Head of Global Scientific and Clinical Affairs, Kulzer),
Rafaela Passos de Souza (The Western University, Canada),
Ulysses Lenz (The University of Passo Fundo, Brazil)

3. 第 103 回 IADR 総会・学術大会参加報告

長﨑　敦洋
（東北大学大学院歯学研究科　分子・再生歯科補綴学分野）

2025 International Association for Dental Research (IADR) / Pan European Regional (PER) General Session & Exhibition が，2025 年 6 月 25 日～ 28 日にかけて，スペイン バルセロナにおいて開催されましたので，現地での様子を報告させていただきます。バルセロナは，マドリードに次ぐスペイン第 2 番目の大都市であり，国際的な観光都市であると共に，国際会議が多く開かれ，政治や文化，学術の面で大きな影響力を有しています。バルセロナには，サグラダ・ファミリア教会やグエル公園等の建築家アントニ・ガウディ氏が残した建築物が点在し，同氏の作品群としてユネスコの世界文化遺産に登録されています。

今回の IADR では，90 を超える国と地域から，4,600 名以上の参加があり，40 余りのシンポジウムと 350 題を超える口頭発表，約 2,600 件のポスター発表が行われ，最先端の研究発表に対し，バルセロナの熱気同様に，非常に活発な議論が行われました。私が所属する Prosthodontics Group では，若手歯科補綴学研究者に贈られる Arthur R. Frechette Prosthodontic Research Award において，当分野大学院生の佐藤友美さんが，抜歯後の歯槽骨吸収メカニズムの解明をテーマに発表を行い，第 1 位を受賞しました。また，JADR 会員として，若手研究者のポスター発表を対象とした Pre-Prosthetic Regenerative Science Award において，東京科学大学の Khin Moe Thu さんが，インプラントオーバーデンチャーが顎堤吸収に及ぼす影響について発表し，第 2 位を受賞されました。今後も世界最先端の歯科補綴学研究を目指し，是非多くの若手の先生方に本賞に挑戦していただければと願っております。

また，ポスターセッション座長を務めさせていただいた Mineralized Tissue Research Group では，骨免疫学に関する発表に加えて，3D プリンタによる顎骨再生治療技術やインプラント表面改質に関する演題が多く発表されていました。これまでは分子生物学的な内容が多かった本 Group において，理工学分野や AI 等の異分野と融合させた研究発表が多くなった印象を受けました。

研究はアントニ・ガウディ氏の建築のようなもので，奇抜に見えたとしても，その基礎には緻密な設計と膨大な時間があります。バルセロナで開催された本 IADR を契機に，今後も好奇心と論理性，継続性を持ち，研究を進めていきたいと改めて感じました。

末筆ですが，IADR での参加ならびに発表に際し，御支援いただきました共同研究者の先生方，分子・再生歯科補綴学分野の先生方に厚く御礼を申し上げます。

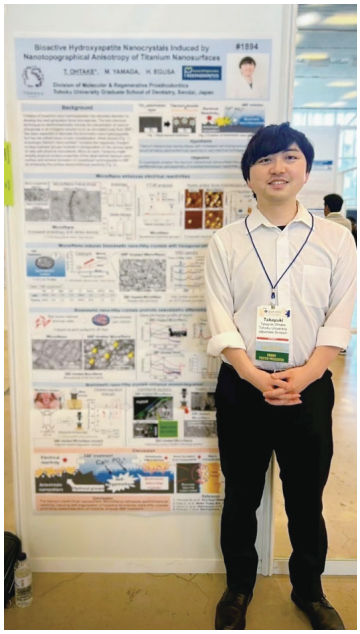
Arthur R. Frechette Prosthodontic Research Award
コンペティションの様子
（発表者は受賞した佐藤友美さん）

医局懇親会にて（一番奥が筆者）

Ⅲ．IADR hatton Award 本選を終えて

1．Hatton Award 最終選考を終えて

大竹　孝幸
（東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野）



このたび，スペイン・バルセロナで開催された第 103 回 IADR Hatton Award 最終選考に，日本部会代表として参加させていただきました。日本代表に選出いただいたことは大変光栄なことであり，JADR 選考委員の先生方および事務局の皆様に心より御礼申し上げます。

昨年 11 月に開催された日本予選は，学位審査や他学会の発表準備と重なる時期で，大変充実した日々を送っていたことを今でも鮮明に覚えています。江草宏先生, 山田将博先生には，プレゼンテーションや質疑応答における所作・対応の仕方などをご指導いただき，自身でも徹底した練習を重ねた結果，日本予選本番では力を出し切ることができました。特に今年は IADR の開催地がバルセロナということもあり，例年以上の応募があったと伺っております。そのような激戦の中で代表に選出いただけたことは，私にとって大きな自信となりました。

代表決定後の半年間は「本選で最高の発表を行う」という目標を胸に，研究と準備に邁進しました。新しい実験データを加え，プレゼンテーションや質疑応答の精度を高めることに注力しました。また，医局での予演会や留学生の友人・後輩を交えた練習会を繰り返し，とにかく「やり切った」と言える状態で本番を迎えることができました。

本選当日は長旅の疲れもありましたが，全力を尽くすことに集中し，プレゼンテーション・質疑応答ともに大きなミスなく終えることができました。入賞には至りませんでしたが，世界の舞台で研究を発表し，各国の優れた若手研究者と交流できたことはかけがえのない経験となりました。今回得た学びや気づきは，今後の研究活動や国際発信に必ず活かしていきたいと考えています。

今回の経験を通じて，世界に挑むためには常に進化を続ける必要があることを実感しました。次なる挑戦に向けて研究・臨床・教育に全力で取り組み，国際的に認められる大学人を目指して精進してまいります。

最後になりますが，本選に向けて多大なるご指導を賜りました江草宏先生，山田将博先生，そして JADR の先生方に，改めて心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

2. Hatton Award 2025 最終選考を終えて

信太　実有
（九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 歯周病学分野）

2025 年 6 月，スペイン・バルセロナで開催された IADR 総会において，私，信太実有は，若手研究者の登竜門である Hatton Award の最終選考に出場する機会をいただきました。国内外の著名な研究者や審査員を前に，自身の研究成果を発表したこの経験は，研究者として，また一人の人間として，かけがえのない財産となりました。

私が発表したのは，「歯周組織再生治療に用いられるアメロジェニンが持つ，免疫抑制および抗炎症作用」に関する研究です。これまで歯学分野では組織再生を促す物質として認識されてきたアメロジェニンですが，私たちは，それが免疫細胞であるマクロファージに作用し，免疫応答を抑制するという，新たなメカニズムを発見しました。この知見は，歯周病学を超え，自己免疫疾患や移植医療など，より広範な領域への応用可能性を示唆するものです。

国内予選を突破し，ファイナリストとしてバルセロナの舞台に立つまでの準備は，非常に挑戦的なものでした。特に苦労したのは，発表時間の 10 分間で，スライド 4 枚という限られた制約の中で，専門分野が異なる多岐にわたる審査員の先生方に，いかに自身の研究の新規性と重要性をわかりやすく

伝えるかという点でした。しかし，この制約があったからこそ，研究の本質を深く掘り下げ，最も伝えたいメッセージを研ぎ澄ますことができました。また，英語での発表自体は，大変さよりも楽しさが勝る経験でした。不思議なことに，日本語を話す時よりも，英語を話す時の方が，より積極的に，そして大胆に自分を表現できる気がします。

発表当日，国内予選では林先生をはじめとする審査員の先生方が，熱心に，そして親身に話を聞いてくださったことが強く印象に残っています。しかし，バルセロナでの本選は一転，全く専門分野の違う先生方が審査員で，発表中，自分の話が伝わっているか不安でいっぱいになりました。結果は残念ながら入賞を逃してしまいましたが，この経験は私にとって大きな学びとなりました。研究の本質を，誰にでもわかる言葉で語る，その重要性を痛感したからです。

しかし，この大会で得たものは結果だけではありませんでした。ポスターセッションやレセプションを通じて，世界中から集まった，他大学，他分野の若手研究者や先生方と交流できたことは，何物にも代えがたい経験です。特に，ドイツの大学院生が私と同じアメロジェニンを，しかもヒト由来のものを研究していると知ったときは，大きな喜びと興奮を感じました。同じ研究に情熱を傾ける仲間との出会いは，今後の研究活動における大きなモチベーションとなることでしょう。

最後に，このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様，そして日頃より熱心にご指導いただいている九州大学の先生方に心より感謝申し上げます。今回の経験を糧に，今後も歯周病学の枠を超えて，人類の健康に貢献できる研究を続けていきたいと考えています。

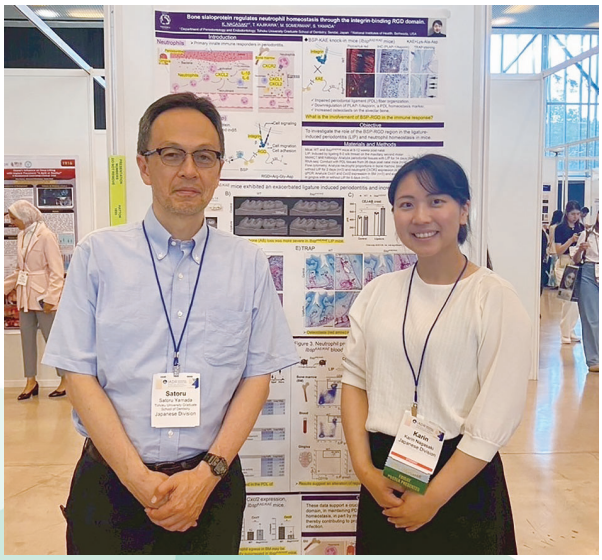
3. Hatton Award 2025 最終選考を終えて

長﨑　果林
（東北大学 大学院歯学研究科 歯内歯周治療学分野）

この度，2025 年 6 月にスペイン，バルセロナで開催された，103rd General Session & Exhibition of the IADR での 2025 Hatton Award Competition において，JADR での選考を経た最終候補者として発表させていただく機会をいただきました。このような歴史ある素晴らしい場で JADR 代表として発表させていただき，選考会等でお世話になった先生方，並びに JADR 事務局の方々に心より感謝申し上げます。

Hatton Award Competition では，“Bone sialoprotein regulates neutrophil homeostasis through the integrin-binding RGD domain.” という演題で発表させていただきました。本発表では，これまで骨代謝にのみ関わると考えられてきた硬組織分泌タンパク質が，実は好中球の動態や機能にも影響を与え，結果として歯周組織の炎症制御に寄与していることを，遺伝子改変マウスを用いて示しました。骨シアロタンパク質（Bone sialoprotein, BSP）は，歯周組織における代表的な細胞外基質タンパク質で，インテグリン結合 RGD（Arg-Gly-Asp）モチーフを介して細胞挙動を制御しています。BSP は骨髄中にも豊富に存在し，好中球やマクロファージが骨髄内で分化することから，BSP がこれら免疫細胞の動態にも影響を与えている可能性が示唆されていたものの，BSP の免疫細胞制御機構や炎症応答への関与については未解明でした。本研究では，BSP-RGD の欠損により骨髄から血液循環への好中球の放出が一部阻害され，歯肉への好中球浸潤が減少した結果，絹糸結紮による実験的歯周炎が増悪することを，BSP のインテグリン結合能を欠損させた遺伝子改変マウスを用いて明らかにしています。本成果は，歯周炎の分子制御機構の解明に寄与するだけでなく，歯周組織と全身疾患との関連を明らかにする上でも重要な研究であると考えております。

IADR への参加は今回で 4 度目となり，歯学研究者である夫と 3 歳の娘と共に参加いたしました。子どもが生まれてからは数年間，国際学会はもちろん国内学会への参加も控える時期が続き，研究・臨床・家庭の両立の厳しさを強く実感しておりましたので，今回の Hatton Award Competition への参加には大きな意義がありました。学会準備にあたり支えてくれた夫と幼いながらに理解し応援してくれた娘には心からの感謝を伝えたいと思います。本大会では，多分野の研究者との積極的な意見交換を通じて研究の方向性に関する新たな知見を得るとともに，将来的な共同研究へと発展し得る有益な繋がりを構築することができました。今回の貴重な経験を糧に，今後も研究活動に精進して参りたいと思います。最後になりましたが，本研究に対しご指導いただきました所属講座の山田聡教授，梶川哲宏講師，およびアメリカ国立衛生研究所の Martha Somerman 先生に深く感謝申し上げます。



IADR ポスター会場にて　山田聡教授（左）と筆者（右）

Ⅳ．IADR Cariology Research Group Student Research Award 1st Place を受賞して

権藤　理夢
（東京科学大学大学院医歯学総合研究科　う蝕制御学分野）

昨年の 2024 年 3 月に米国ニューオーリンズにて開催された 2024 IADR General Session & Exhibition において，IADR Cariology Research Group Student Research Award 1st Place を受賞し大変光栄に存じます。本賞は IADR の Cariology Research Group のメンバーである学部生および大学院生を対象とした賞で，齲蝕およびエロージョンを対象とした独創的な研究を発表した若手研究者に贈られるものです。

発表タイトルは”Comparative Analysis of the Coronal and Root Caries Microbiome”で，歯冠齲蝕と根面齲蝕の細菌叢の違いについて焦点を当てて研究を行いました。齲蝕の病因に関しては古くから，*S.mutans* が原因菌の一つとして挙げられてきましたが，近年の分子生物学的手法および，次世代シーケンサーの発展により，口腔内細菌には培養できない細菌も多くいることが明らかとなり，齲蝕についてもさまざまな細菌の関与が明らかとなってきています。またこれまでは，プラークを検体とした研究が主流であった一方で，近年齲蝕象牙質中の細菌叢に対する研究も報告されつつあります。本研究では，歯冠齲蝕と根面齲蝕の齲蝕象牙質を検体として採取し，次世代シーケンサーによる網羅的細菌叢解析を行いました。その結果，根面齲蝕においては歯冠齲蝕と比較してより複雑な細菌叢が存在していることが明らかとなってきています。本研究結果から，どちらの齲蝕においても *Olsenella* 属や *Lactobacillus* 属が多く存在しており，これらの細菌群が主体となって齲蝕を進行させている可能性が明らかとなりました。その一方で，*S.mutans* に代表される *Streptococcus* 属の細菌は全体の数％程度しか検出されず，齲蝕の進行において果たしている役割は限定的である可能性が示唆されました。

しかしながら，これらの細菌が実際にどのようにして齲蝕の進行に寄与しているかのメカニズムについては依然として不明な部分も多く，齲蝕の進行を制御し，予防戦略を開発していくにあたっては，今後更なる研究が必要であり，現在臨床検体を用いた研究と並行し *in vitro* での研究も組み合わせつつ，研究成果の社会還元に向けてより一層の努力を重ねております。

学会においては全世界から参加した研究者と広く意見を交換することができ，今後の研究の方向性についても多様な意見をいただくことができ，非常に良い機会となりました。さらに学会期間中にはクレオール文化が織りなすユニークなニューオーリンズの風情とジャズ文化にも触れることで次なる研究への英気を養うこともでき，良い滞在となりました。

最後にはなりましたが，本研究の遂行にあたりましてご指導を賜りました，東京科学大学大学院医歯学総合研究科う蝕制御学分野の島田康史教授，平石典子先生，King's College London, Centre for Host-Microbiome Interactions の David Moyes 先生と研究室の皆様に心より感謝申し上げます。

Exhibition Hall エントランスにて

Ⅴ．IADR APR Mentor–Mentee Programme 第2回ワークショップに参加して

大嶋　淳
（大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学講座）

2025年3月27日（木）にオンラインにて開催された「Second Workshop of IADR APR Mentor–Mentee Programme」にて“Elucidation of the mechanism of inflammasome activation by the periodontal pathogen *Fusobacterium nucleatum*”をテーマに発表しました。歯周病関連菌 *Fusobacterium nucleatum*（*F. nucleatum*）がマクロファージのインフラマソーム活性化をどのように誘導するかを，インターフェロンγ（IFN-γ）とGuanylate-binding proteins（GBPs）に焦点を当てて検討した研究です。

ヒトTHP-1細胞およびマウス骨髄由来マクロファージを用いた実験では，*F. nucleatum*感染によりIL-1β産生が上昇し，この反応はIFN-γ前処理で顕著に増強されました。一方，GBP群の欠損条件ではIL-1βの放出は減少し，共免疫沈降解析ではIFN-γ存在下でGBP1のダイマー形成が確認されました。さらに，GBP1ダイマー化を促進する化合物の添加により炎症応答が強まることから，GBP1ダイマー化が*F. nucleatum*依存性インフラマソーム活性化の鍵であることが示唆されました。

今後は，（1）GBP1ダイマー化の分子基盤，（2）カスパーゼ-1活性化経路の分岐点，（3）JAK–STATやオートファジーなど宿主側制御との連関，（4）抗菌療法やプロバイオティクス介入との相互作用を精査し，基礎メカニズムを臨床応用につなぐトランスレーショナル研究へ発展させたいと考えています。

最後に，本プログラムはメンター・メンティー双方の視点から活発な議論が交わされ，アジア太平洋地域の若手研究者とのネットワーキングを大いに促進しました。運営各位に深く感謝申し上げるとともに，学生・若手研究者の皆さんも国際的な交流の場への積極的な参加されることを期待しています。

Ⅵ．第74回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会開催のご案内

大会長　加藤　隆史
（大阪大学大学院歯学研究科口腔生理学講座）

会　　期：2026年11月28日（土）、29日（日）
会　　場：大阪大学箕面キャンパス
（〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10）
大 会 長：加藤　隆史
（大阪大学大学院歯学研究科　口腔生理学講座）
内　　容：特別講演，シンポジウム，ランチョンシンポジウム，ポスターセッション，展示，その他

Ⅶ．第104回IADR総会・学術大会のご案内（2026年度IADR, San Diego, CA, U.S.A.）

2026年度のIADRは，3月にSan Diego（U.S.A.）にて開催予定です。奮ってのご参加をお願いいたします。

会　　期：2026年3月25日（水）～28日（土）
開 催 地：San Diego, CA, U.S.A.
San Diego Convention Center
（111 W. Harbor Drive, San Diego, CA 92101, United States）
参加登録：間もなく開始の予定です。
詳細は、ホームページ　https://www.iadr.org/2026iags/　をご参照ください。

Ⅷ. IADR2029 横浜大会 開催が決定しました！

JADR 会長　林　美加子
（大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学教室）
IADR2029 横浜大会
実行委員長　江草　宏
（東北大学大学院歯学研究科口腔修復学講座分子・再生歯科補綴学分野）
副実行委員長　松本　卓也
（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学）

2029 年度の IADR 開催について，このたび 6 月に開催された IADR Council Meeting におきまして、横浜で開催することが正式に決定いたしました。会期及び会場は以下となっております。日本での開催は、1980 年（大阪）、2001 年（幕張）以来、3 度目となります。

JADR 会員の先生方、関連の皆様より多数ご参加いただき盛り上げてまいりたいと存じます。一層のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

107th General Session & Exhibition of the IADR ／
8th Annual Meeting of the IADR Asia/Pacific Region
会　　期：2029 年 6 月 27 日（水）～ 6 月 30 日（土）
開　催　地：パシフィコ横浜
（神奈川県横浜市みなとみらい 1 丁目）

IADR
INTERNATIONAL ASSOCIATION FOR DENTAL, ORAL, AND CRANIOFACIAL RESEARCH

CONTENTS

Ⅰ．巻頭言　林　美加子　1

Ⅱ．第 103 回 IADR Barcelona 大会（2025 年度）各受賞者報告，参加報告

1. Arthur R. Frechette New Investigator Award を受賞して　佐藤　友美（東北大学）　2
2. IADR Kulzer Travel Award を受賞して　Yo-Shiuan FAN（大阪大学）　3
3. 第 103 回 IADR 総会・学術大会参加報告　長﨑　敦洋（東北大学）　4

Ⅲ．IADR hatton Award 本選を終えて

1. Hatton Award 最終選考を終えて　大竹　孝幸（東北大学）　5
2. Hatton Award 2025 最終選考を終えて　信太　実有（九州大学）　5
3. Hatton Award 2025 最終選考を終えて　長﨑　果林（東北大学）　6

Ⅳ．IADR Cariology Research Group Student Research Award 1st Place を受賞して　権藤　理夢（東京科学大学）　7

Ⅴ．IADR APR Mentor–Mentee Programme 第 2 回ワークショップに参加して　大嶋　淳　8

Ⅵ．第 74 回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会開催のご案内　加藤　隆史　8

Ⅶ．第 104 回 IADR 総会・学術大会のご案内（2026 年度 IADR, San Diego, CA, U.S.A.）　8

Ⅷ．IADR2029 横浜大会 開催が決定しました！　林　美加子　江草　宏　松本　卓也　9

Ⅰ．Report for the First half of 2025　Prof. Mikako Hayashi: JADR President　1

Ⅱ．Reports of the 103rd IADR General Session in Barcelona, Spain

1. Arthur R. Frechette New Investigator Award　Dr. Yumi Sato: Tohoku University　2
2. IADR Kulzer Travel Award　Dr. Yo-Shiuan FAN: Osaka University　3
3. Report of the 103rd IADR General Session　Dr. Atsuhiro Nagasaki: Tohoku University　4

Ⅲ．2025 IADR Unilever Hatton Competition & Awards

1. Dr. Takayuki Ohtake: Tohoku University　5
2. Dr. Miyu Shida: Kyushu University　5
3. Dr. Karin Nagasaki: Tohoku University　6

Ⅳ．IADR Cariology Research Group Student Research Award 1st Place　Dr. Tadamu Gondo: Institute of Science Tokyo　7

Ⅴ．Report of the IADR APR Microbiology & Immunology Workshop 2025　Dr. Atsushi Ohshima: Osaka University　8

Ⅵ．Announcement of the 74th JADR Annual General Meeting　Prof. Takafumi Kato: Osaka University　8

Ⅶ．Announcement of the 104th General Session of IADR in Barcelona, San Diego, Calif., U.S.A.　8

Ⅷ．Announcement of the 107th General Session & Exhibition of the IADR／8th Annual Meeting of the IADR Asia/Pacific Region, in Yokohama, JAPAN　9

●編集後記●

編集担当の東北大学・江草 宏です。今号の大きな話題は，なんといっても 2029 年 IADR 大会の横浜開催決定です！今里 IADR 前会長をはじめ，林 JADR 会長，森山前会長，中村元会長，そして多くの皆様のご尽力により，約 30 年ぶり，IADR の長い歴史の中で 3 回目となる日本開催という快挙が実現しました。この大会は，まさに歯科界全体のお祭りともいえるイベントです。ぜひ周囲の先生方，学生の皆さん，地域の先生方，デンタルスタッフの方々にもお声がけいただき，横浜大会に向けて JADR を盛り上げていきましょう！また，今号でもご紹介のとおり，IADR・JADR には若手研究者のキャリアを後押しする多くの賞が設けられています。ぜひ積極的にご活用ください。受賞された皆さまに心よりお祝い申し上げます。今後，グローバルリーダーとしてのさらなるご活躍を期待しています。

発　行：国際歯科研究学会日本部会（JADR）　https://jadr.umin.jp

連絡先：
国際歯科研究学会日本部会（JADR）
副会長　江草　宏（東北大学大学院歯学研究科　分子・再生歯科補綴学教室）
〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302
TEL：075-468-8772　FAX：075-468-8773

2025 年 10 月 31 日　発行